

平成31年度（2019年度）第1回函館市地球温暖化対策地域推進協議会 会議概要

1 日時 平成31年（2019年）4月19日（金）午後1時30分～2時45分

2 場所 函館市環境部4階大会議室

3 出席者 委員（20人）

佐藤不二子委員，佐々木香委員，陳有崎委員，安藤真理委員，木村周治委員，高橋泰助委員，渡部浩典委員，砂原壮吉委員，辻廣孝司委員，若松栄委員，千葉隆芳委員，松原仁委員，伊藤聡委員，山本涉委員，金鉉善委員，山村織生委員，安達幹彦委員，池田誠委員，松本伸委員，池田幸穂委員  
事務局（5人）

事務局長 進藤昭彦（環境部環境総務課長）

事務局員 橋本健二（同課主査），福田誠（同課主査），佐藤弘康（同課主任），上野沙耶（同課主事）

4 傍聴者 なし（随行者1人（渡島総合振興局保健環境部環境生活課））

5 発言要旨

(1) 開会

（事務局）

- ・ 名簿順に出席委員の紹介
- ・ 事務局長から事務局員の紹介
- ・ 会長選出までの間，事務局で議事進行する旨の確認 委員：了承

(2) 議事

ア 会長・副会長の選出

- ・ 事務局から「会長：松原仁委員，副会長：高橋泰助委員」を提案
- ・ 全会一致の承認を得て会長：松原仁委員，副会長：高橋泰助委員を選出

○ 挨拶

（松原会長）

引き続き会長に選出いただいた松原です。よろしくお願ひします。

ここ数年，函館市においても温暖化の影響が出ています。雪が少なくなるのはうれしいことかもしれませんが，水温の影響は大きいです。

捕れる「さかな」が換わっています。「いか」が函館で捕れないのは水温だけの問題ではないといわれてはいますが，やはり温度が上がり，函館では捕れなくて稚内の方では捕れているとの話しをきくと「いか」に適した水温は稚内の方だと考えられます。

初めの頃は，「いか」が不漁だといっていました，不漁が3年・4年と続くと，残念だが函館では「いか」が捕れなくて，「いか」は函館に近づいてくれなくなったといえることとなります。「さけ」もあまり捕れません。それに換わり「ぶり」が捕れています。

未来大学では漁業の研究も行っており，昨年，午前2時起床，南茅部の漁港を午前4時出港の定置網の漁船に乗船しました。「ぶり」が大漁で函館らしくない風景でした。漁師さんによると最近はいつもこのような状況で，捕れないよりはいいが，北海道の「ぶり」は北陸と違い，高い値が付かないので「ぶり」では困るといっていました。

温度が上がったことで，函館の主要産業である漁業への影響は端的に表れています。

温度は少しずつ上がっており，昨年と今年で劇的に変わったわけではありません。10年・20年単位でも少しずつで，20世紀のこの100年間でも何度上がったでしょうか（日本の平均気温は長期的には100年当たり1.19℃の上昇）。21世紀末にはこのまま放っておくと何度上がるのでしょうか。ほんの少しずつ気温は上昇します。その結果は，北極の氷が溶けます。色々な問題があつて，北海道のように海に囲

まれた地域、漁業を大切な産業と位置する地域では影響が大きいのです。

地道な作業ではありますが、温暖化について多くの人に感心を持ってもらい、温暖化対策を少しずつでも前に進めるようにこの協議会を設けていますので、皆さんの協力をお願いします。

(高橋副会長)

中小企業の集まりで、勉強している中小企業家同友会の高橋です。よろしくお願いします。

温暖化による函館の産業への影響については、大変厳しいのが現状です。実際、水産業関係では「いか」が捕れないことの影響で、会社の倒産も起こっています。魚種転換を図るとしても、なかなか難しいのではないのかと思います。

もっと心配なことで、駅前におけるホテル建設ラッシュ、豪華客船が駅前のふ頭に寄港しました。観光はすごい勢いです。観光客の楽しみは、海産物・食材としての「いか」・「こんぶ」・「まぐろ」・「さけ」です。本当に「いか」は捕れていないし、朝市でも「いか」は売っていません。「いか」が買えなくなりました。徐々に、市民の口にも入らないようになってきています。観光面への影響を危惧しています。

今日の新聞に、有識者から首相への日本の地球温暖化に係る対策の提言について、CO<sub>2</sub>の排出が多い石炭火力発電の廃止の案が、産業界の強い反対で消えたことが報道されていました。産業界、経団連は、一次産業や地方を重要視していないのではないかと感じられ、日本自体への強い危機感を感じています。

自分たちでも何かをしなければなりません。本協議会では、ノーマイカーデー事業を継続して実施しています。本当に小規模ではあるが、最初は100人の参加者から昨年は1,000人まで増えました。本日は多くの関係団体の皆さんに集まっただいていますので、皆さんの協力で今年は1万人まで増えれば、市民が地球環境を考えて行動していることをアピールできると思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

#### イ 函館市の温室効果ガスの排出状況について

事務局から資料1 平成27年度(2015年度)函館市の温室効果ガスの排出状況(確定値)により報告

(松原会長)

- ・ 基準年と比較して人口は減少していますが(32万人→26万人:6万人減)、1人当たりの温室効果ガス排出量は増えています(8.89トン→10.58トン:1.69トン増)。東日本大震災や原子力発電所の停止等の色々な事情が影響しています。
- ・ 車の保有台数は大幅に増加しています(148千台→175千台:27千台増)。車の性能向上や燃費の改善に係るガスの排出量は勘案しているのでしょうか。

(事務局)

- ・ 勘案しています。
- ・ 車の台数は基準年の1990年と比較すると増加していますが、近年は頭打ちの状況です。

(松原会長)

- ・ フロンガスはオゾン層の破壊に繋がることから、代替フロンが変わって役割をはたしましたが、温室効果が高いガスなので規制されるということです。たちごっこ的で、確かにいい方向へ進んでいるのですが、なかなか最先端の技術が温暖化の解消にどれだけ貢献できるかは難しいと思います。
- ・ 産業部門のうち製造業の二酸化炭素排出量については、経済活動が疲弊し、縮

小して減少することは、企業の節約が減少に繋がるのと違い残念なことです。基準年と比較して減少しているのは、2005年に日本たばこの工場が閉鎖したことが大きな原因との説明がありましたが、これも経済活動の縮小によるものです。

(事務局)

- ・ 2014年と2015年の比較では二酸化炭素の排出量は増加しています。これは、製造業出荷額が増加したもので経済活動の面では良いことではあります。
- ・ エネルギーのうち電力が占める割合は大きく、排出量には、電力会社の排出係数が大きく影響しています。基準年の排出係数で推計すれば2015年度の排出量は基準年比で9%の削減が図られていることになり、現在の3%より大きな削減となります。エネルギーとしては、9%の削減が図られています。これは市民の皆様の省エネ・節電は一定程度進められていることを現しています。

(高橋副会長)

- ・ 過去の統計等の資料から算出しているもので、市内における単純に電気の使用量、ガソリン・灯油等の販売量を元に算出することがいいのではないのでしょうか。地域の消費熱量を表すことで生活性が出るのではないかと思います。

(事務局)

- ・ 温室効果ガスの排出量は、国が定めた方法で算出する必要があります。
- ・ 副会長の提案のとおり、市民の皆さんにもわかりやすいエネルギーの消費量等の指標の設定等も、計画更新時に併せて検討します。

#### ウ 平成30年度(2018年度)事業報告について

事務局から資料2 平成30年度(2018年度)事業報告および資料3 はこだてノーマイカーデー2018実施状況により報告

(松原会長)

- ・ ノーマイカーデーについては、当初の目的である温暖化対策に加え、健康志向も踏まえて実施しており、参加者の増にも繋がったと思われます。
- ・ 北海道クールアース・ディの取組については、台風による悪天候のため中止となったのは残念です。
- ・ 中止の原因の台風ですが、温暖化の影響が大きいです。台風が、北海道に昔よりはるかに多く来るようになり、これまでは、冬の災害に気をつけていましたが、それに加え台風対策を考える必要があります。今年も北海道に上陸することを覚悟しなければなりません。

#### エ 平成31年度(2019年度)事業計画(案)について

事務局から資料4 平成31年度(2019年度)事業計画(案)により説明

(松原会長)

- ・ 昨年まで実施していた市民講座を、(仮称)はこだてエコライフフェアとして開催します。今までの講演に加えて、ブース設置など内容を拡大して実施する予定です。

(佐々木委員)

- ・ 「はこだてエコライフのすすめⅢ」リーフレットの配布場所を、公共施設以外にドラッグストアやコンビニ等も検討して欲しいです。
- ・ 私たちの団体が実施する事業のチラシを公共施設で配布しましたが、参加者からドラッグストアやコンビニ等での配布をお願いする意見がありました。市民の手に取れるお店等で配布することで、より市民に啓発できるのではないかと思います。

ます。

(事務局)

- ・ 検討します。

(松原会長)

- ・ 配布するスペースもあるコンビニもあるので、お願いして欲しいと思います。公のリーフレットなので配布してくれるのではないのでしょうか。

(陳委員)

- ・ ノーマイカーデー事業の参加者が増えたことは明るいニュースではあるが、資料に記載の事業実施の定量的効果で、節約燃料が2,635リットル、燃料費として約30万円で、これでは費用対効果は低く、石油会社が困るくらいの事業にしないと社会的インパクトがないと思います。
- ・ 温暖化対策は、世界的に地球上の問題であり、国においても国策として進めなければならないものです。
- ・ 事業の啓発活動については、リーフレット等の配布を進めることも大切ではありますが、イベント開催における参加者は少ないと感じます。「はこだてエコライフゲーム」参加者130人は全体のなかでは少ないと思います。より多くの人を対象にするには、小中学校へ持ち込んでいく必要があると思います。本協議会の構成団体に大学等があり、その持ち場では啓発されていると思いますが、小中学校へのアプローチがなされていないのではないのでしょうか、その点を考えて欲しいです。

例えとして、以前私が携わった「まちづくり活動」において、函館のまちづくり作文コンクールを実施しました。この事業は子ども達に夢と希望を与えるもので、小中学生に周知するために、新聞等の報道機関による広報に加え、直接教育委員会経由で学校にチラシ等を配置したことで効果がありました。

エコライフは子ども達への教育でもあり教育委員会と連携した啓発活動をお願いします。時間がある学校では、本協議会委員の北海道地球温暖化防止活動推進員の池田委員の派遣による講演等も考えられます。

(池田(誠)委員)

- ・ 推進員として、以前は派遣依頼で小中学校での講演等を行ってきました。最近、依頼件数は少なくなっています。教育委員会に対して、推進員の派遣活動についての情報を提供してくれたら助かります。

(事務局)

- ・ 協議会ではなく市の事業では、学生対象の事業として、温暖化を含めた環境に関する壁新聞「スクール・エコニュース」の募集や小学4年生向けに温暖化やエコライフを掲載した環境副読本の配布を行って、学校での学習に活用してもらっています。出前講座では数年前に小学生向けのメニューを増やし積極的に学校を訪問しています。
- ・ 昨年、環境部の電気自動車の更新があり愛称募集を行い多くの小学生からも応募がありました。結果、愛称は小学生が応募した「はこだてエコレンジャー号」に決まりました。
- ・ このように子ども達を対象として事業を実施しています。今後も委員の皆さんからの意見・アイデアをいただき実施内容を検討します。

(松原会長)

- ・ 他に意見がなければ、事業計画(案)の承認いただけますか。

※ 委員：異議なし

(松原会長)

- ・ 異議がないようですので、「平成31年度(2019年度)事業計画(案)」は

承認されました。委員の皆さんからの意見があったので、配慮しながら進めます。  
最後にその他について、委員の皆様から何かありますか。

※ 委員：意見なし

- ・ 事務局から何かありますか。

(事務局)

- ・ 今後の予定は、本日はこだてノーマイカーデー事業検討部会の設置について承認いただいたので、後日、構成委員の指名を行い、部会の開催の案内をします。
- ・ なお、委員の皆様からの新たな事業提案などについては、随時受け付けていますので、事務局までご連絡をお願いします。

(松原会長)

- ・ 以上をもちまして、本日の会議を終了します。皆様ご協力ありがとうございました。

(3) 閉会